おわりに

本書は、「西川祐信研究会」の共同研究の成果として、研究会に参加された各氏の論文及び目録を掲載したものである。「西川祐信研究会」は、二〇一一年と二〇一二年の二回に亘り、国際日本文化研究センターにて開催された。研究会では、各分野の研究者が集まり、様々な角度から祐信という絵師を照らし出した。

春画を指して「西川絵」という呼称もあった程で、祐信は、春画・春本の名手として知られていた。春画・春本は、祐信を語る上で重要な一側面であると言えよう。日文研は、祐信の春画・春本を二四点所蔵している。第一回の研究会では、発表者とともにこれらの資料を鑑賞し、祐信描く男女の姿の美しさだけでなく、作品に凝らされた趣向の妙を楽しんだ。

祐信は京都で生まれ、京都で浮世絵師として生きた。日文研所蔵の古地図データには、当時の祐信の家を見つけることが出来る。それは森幸安制作の地図で、寛延三年（一七五〇）一一月の識語のある「皇州緒余撰部城池天府京師地図」である。その内に、四条通柳馬場通を南に下がった永原町の東側、綾小路通と仏光寺通を跨いで「浮世画師　西川祐信」という文字が見える。祐信の竹馬の友であり、良き仕事仲間でもあった版元八文字屋の邸宅は、ここより少し北に上がった麩屋町通六角通下る東に位置していた。また、中京区の三条通大宮西入るにある妙泉寺には祐信の墓があり、今に至るまで静かにその場所に眠っている。その京都で、祐信の研究会を開くことが出来たということに、何かしらの所縁を感じるところである。

最後に、図版掲載に御高配を賜った諸機関に深謝申し上げます。

二〇一三年三月吉日

早川聞多

●「皇州緒余撰部城池天府京師地図」（国際日本文化研究センター所蔵データより）